

## 日本人中学校英語教師の語の頻度及び分布度に関する直感(3)

増淵 素子（東京家政大学大学院生）

キーワード：中学校教師，語の頻度及び分布度，直感

本研究は、中学校英語教師が、語の頻度及び分布度（検定教科書中の出現レンジ）を直感で判断できるか明らかとすることを目的とする。Nation（2001）は、頻度の区別は非常に重要で、教師は頻度に応じてまったく異なる方法で語を扱うべきであるとしている。現行教科書には頻度情報が記載されておらず、他の資料を参照できない場合、教師は自らの直感を指針とすることとなる（望月他，2003）。しかし、英語教師の語の頻度判断は必ずしも正確ではなく（McCrostie, 2007）、中学校英語教師が中学生が英語を学ぶ上で重要な語を判断する際に頻度とレンジのどちらに基づいているかはわかっていない。そこで、中学校英語教師を対象に、語（ $n = 80$ ）の頻度及びレンジに関する調査（5件法）を実施後、特徴が見られた教師に対して、検定教科書の語（ $n = 56$ ）の重要度に関する調査（5件法）を行った。結果に個人差が見られた。